

音中  
王獻之書  
喜在得  
采  
右以陰桂檣攘  
神爵  
子採  
端賴  
之玄之余  
愧其洲  
美子



下蕩而不怡無良  
歡于託微波以通辭願誠  
素之先達于解玉珮  
嗟佳人之信脩于美習禮



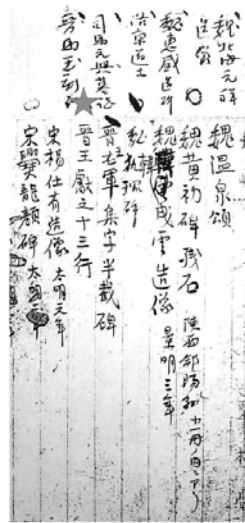
姬媧之  
匹子詠  
孳牛  
之獨處揚  
工桂之  
靡  
子醫脩袖以延佇  
迅飛



# 「落ち穂拾い記」 ⑱

## 梧竹堂法帖（補）幻の『玉版十三行』

図① 梧竹自筆の「梧竹堂法帖目録」中の「玉版十三行」記載部分

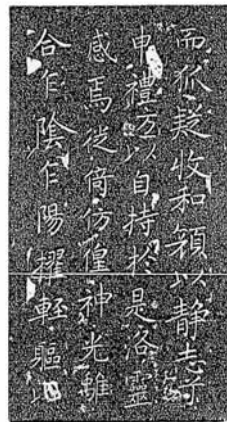


図②

### 書鑒

王獻之楷書玉版十三行

中林梧竹藏本



図③

五体法書中の「玉版十三行」臨書(部分)



2004年の展覧を機に、金沢の〇氏所蔵の「梧竹堂法帖」は、徳島県立文学書道館に寄託されたようである。記憶が定かではないが、2012年前後に本野克彦さん(佐賀県小城出身の実業家)という方から電話で、「梧竹堂法帖」のことで話があり、お目にかかることになった。お話によれば、〇氏所蔵の「梧竹堂法帖」を全て購入したと。就いては、これらの「梧竹堂法帖」を全部調べて目録図冊を制作したいとの依頼であった。購入された「梧竹堂法帖」は、全て佐賀の小城市立中林梧竹記念館に寄託してあるとのこと。再度「梧竹堂法帖」を丁寧に確認できることに興奮した。その作業の前に「梧竹堂法帖」をすべてを写真撮影し画像データにしていただきたいとお願ひした。しばらくして、A4のカラープリント千五百余枚と画像データが送られてきた。剪装本は、書帙、表紙を始めとして全ページ丁寧に写されており原帖を手にとるような感じで見ることができた。金石碑文を時代順に、更に王羲之等に関する帖は、別に分けた。小さな造像記や碑文までも正確な名称を付すように努めた。また小城の記念館まで数回出向き、原帖確認もした。記念館には、始めに言及した佐々木盛行氏所蔵の「梧竹翁の大型の手控え帖」(梧竹堂法帖目録を始めとして、北京滞在中の細

かな筆記メモ等)も寄託され、自由に確認することができた。その調査の一端を墨誌に「梧竹堂法帖考」として8回ほどにわたり紹介した。本野氏が入手された「梧竹堂法帖」と家蔵の二種を合わせれば、「梧竹堂法帖」は、ほぼ全てが揃うことになる。日野俊頭(1929~2010)氏は、認識されていたようである。しかし手控え帖にある梧竹自筆の「梧竹堂法帖目録」を対照すると、王獻之の書とされる「晋王獻之十三行」一帙が、行方不明である(図①)。ところが明治後期の書道雑誌「書鑑」の中に家蔵の「興福寺断碑」や「梧竹堂法帖」中の「龍門造像記」「雲峰山題字」が掲載されていた。第七、八、九輯には、「王獻之楷書玉版十三行」が中林梧竹藏本として影印されているのを見出した(図②)。後に刊行された梧竹臨書集である「五体法書」にも「十七帖」とともに「興福寺断碑」や「玉版十三行」が収録されている(図③)。書鑑誌の影印と家蔵の原刻拓本を基に、梧竹翁が秘蔵した行方不明の「梧竹堂法帖」中の「玉版十三行」の復元を試みた。それを右頁に示した。このコロナ禍、今年3月に本野克彦さん(88歳)は亡くなられた。

伊藤滋(書齋名・木鷄室)

# 書道芸術院

## 令和の群像 (2021)



佐藤好美

「令和の群像」の原稿の依頼をいただき、ふと私はいつ書に興味をもったのか思い返してみました。小学2年生の頃、初めて習字の授業で先生に誉めていただき、字を書くことが好きになったような気がします。放課後、展覧会の作品を書いたり、夏休みなどはお弁当持参で学校に行き先生のご指導を受け、一日中書いていました。

高校生になってからは運動部に入り、書道部の生徒達のように練習は出来ませんでしたので、展覧会や学園祭などの時は、夜中に練習をし提出したことも懐しい思い出です。いつしか、書道は一生勉強したいと思うようになっていました。

そして、後に白扇書道会の門を叩き種谷扇舟先生、現在は萬城先生とお二人のご指

導をいただき今日に至ります。扇舟先生の最初の一言は「本物を見なさい」でした。「初めて習う人は良い物を見ないといけないよ」と、貴重な雁塔聖教序の拓本を教室に広げて下さいました。その時の感動は今でも鮮明に覚えています。先生のお蔭でたくさんの拓本を見ることができ、とても感謝しています。本物を見ることができ、中国へ行って直接石碑を見ることが、他なりません。しかし、今は石碑保護のために、お堂に入ったり、ガラスケースの中にと直接見ることが出来ません。以前はすぐ側で見ることが出来、線の厳しさ、力強さ、ゆったりした中にある鋭さ等々、本物の姿は格別でした。しかも、若い時に経験したその感動と興奮は何年たっても心に残っ

ております。今の私の課題は、臨書をどう作品に結びつけるかです。やはり、展覧会や美術館に出掛けて、良い物を見て感動し楽しんで作品を書く。この繰り返しの中に、いつしか良い作品が出来ると信じて学び続けたいと思います。

掲載の作品は、「第74回書道芸術院展」において春華賞候補になった作品です。毎回試行錯誤の連続です。やはり書くしかありません。去年よりは少しは良い作品をとりたいので、リズムにのって無心で筆を走らせ表現出来た時は良い作品が出来るとな気がします。毎日賞をいただいた作品も、この作品もこのような気持ちで書きました。恩地春洋先生が「我々は作家集団である」「作家らしい作品創りを心がけ努力し、切磋琢磨するべきである」ということをお話になりました。このお言葉を年に何度か思い出します。今の私にとっては、まだまだ先のことですが、それに向けて一歩一歩前進していきたいと思えます。



第74回書道芸術院展 「楚中秋思」

佐藤好美書

# 書のひろば

理事長 辻元大雲

## (公財)書道芸術院5月定例理事会 書面表決にて開催

5月8日開催予定であった公益財団法人書道芸術院定例理事会は、コロナウィルス蔓延による緊急事態発令(東京都ほか)により、今回も書面による表決となった。これを基に6月5日開催予定の評議員会にて審議を行い、承認をいただく予定。現在の状況(緊急事態再延長の見込み)により評議員会も書面表決となる予定である。

### ・議案第1号 令和2年度事業報告

原案報告通り承認

### ・議案第2号 令和2年度決算承認

昨年度はコロナウィルス蔓延の影響による諸事業の縮小・中止などによる予算の未執行を考慮して年会費の一律30%減額に伴う決算となり、収入が1474万円ほど減収、旅費交通費、書道振興費、会場費など各種事業支出が減額決算となった。結果として正味財産は1470万円ほど増加となった。詳細は次号院報にてご確認いただきたい。

### ・審議事項

第75回展関係人事 特別推薦(参与会員・常任総務・総務)、昇格者、復帰者、退会者  
第75回展各部署長(一般展・学生展)

決定

次号院報に発表予定。

評議員会では上記2議案のほか、評議員任期満了(4年任期)に伴う、評議員選挙も行われる予定である。

## 第72回毎日書道展鑑別審査

昨年開催を見送った毎日書道展は5月10日(12日の公募・会友・U23の搬入を無事行い)、5月20日から国立新美術館にて鑑別審査が行われた。第72回展の搬入状況は別表の通り、前回展より300点余り減少した。各部とも減少となり、止むを得ないとはいえ厳しさを感じた。

今回展では漢字部と近代詩文書部で大きな変更があった。鑑別審査日程を一日繰り上げ、5月20日(木)午後から両部門の会友作品の審査(入賞候補選出、A候補作品のみ6月審査対象となる)、21日22日に公募・U23の鑑別からは他部門も同様の日程で行った。他の部門では会友作品は従来通り6月に公募A入選作品と合わせ審査する。審査会場も大幅に変更され、大字書部は3階の講堂をお借りして鑑別審査を行い、漢字部近詩部で会場が入れ替わりとなった。

出品数の減少に伴い入選率が従来50%から公募作品は55%、U23部門は53%と若干緩和された。入賞率も前回71回展と同数とする方針が決定され、出品減による減少は回避され、入賞率も緩和されたことは出品者にとり朗報であろう。

第72回毎日書道展出品状況

2021.5.19現在

	漢I	漢II	かI	かII	近詩	大字	篆刻	刻字	前衛	計
公募	2971	4661	1280	1383	3948	1313	291	582	985	17414
会友	1450	1024	234	708	1366	414	86	65	262	5609
U23	299	498	106	87	550	171	47	23	51	1832
72回展計		10903		3798	5864	1898	424	670	1298	24855
71回展		12208		4426	6454	2284	476	743	1486	28077
		-1305		-628	-590	-386	-52	-73	-188	-3222
院(全)		351		267	421	186	0	52	393	1670
71回展		417		310	488	226	0	57	429	1927
		-66		-43	-67	-40	0	-5	-36	-257

今後6月25日(27日の間、入賞審査が国立新美術館にて行われ、30日会員賞選考、7月1日文部科学大臣賞選考へと進む予定である。コロナウィルス蔓延の影響が展覧会開催そのものにも及ぶことも予想され、今後の情勢が心配される。無事の開催を切に願う。

### 「公社全日本書道連盟創立70周年記念『全日本書道連盟七十年史』発刊へ」

本年4月1日に創立70周年を迎えた公益社団法人全日本書道連盟では創立以来の歴史を記録した表記「全日本書道連盟七十年史」を発行する。連盟の記録としては以前「四十年史」「五十年史」などが発行されたが、六十年の折には発行されておらず、20年ぶりの発行となった。今回は五十年史までの基礎資料はDVDに収録して電子媒体での付録とし、平成15年(2003年)以降の記録を編集し、判型もA4判、84頁とコンパクトにまとめて発行する。

現在最終段階に入り、6月中には会員諸氏の手元に配布される予定である。更に記念出版として「書塾経営ハンドブック(仮称)」も作成中で発行はやや遅れ、今秋位に完成予定である。ご期待いただきたい。

### 日本の書 1964×2021 成田山書道美術館で開催

東京オリンピック・パラリンピック開催が1年延長され、さらに現下の状況では開催も危ぶまれる中ではあるが、成田山書道美術館では前回オリンピックが開催された1960年代の書と、今回2021年開催にあわせ今日の書を合わせて展覧し、書の魅力に迫る企画展を開催する。

#### 会期

前期 令和3年5月22日(土)～7月11日(日)  
後期 令和3年7月17日(土)～8月29日(日)

・開館時間 9:00～16:00

・入館料 大人500円 高大学生300円

・中学生以下は無料(招待券あり)

・各期70～80点展示

・院関係作家 和久井要(後期)、香川峰雲、名久井裕三、辻元大雲(前後期陳列)

行について

③行の中の強弱

1行の中の疎と密に近いところもあるが、その疎密よりリズム、書き手の呼吸と関係してきます。1行を書く時、息を詰めて一気に書くのではなく、息を吸う・吐く、息を吹き込むことで、生き生きとした1行が生まれます。「高野切第三種」は、その強弱は著しくありませんが、「高野切第一種」になると、筆者が異なることもあって、かなり強弱は出て来ます。時代が下る「関戸本古今集」になるとさらに顕著、これは、きれいに美しく書くという貴族的なものから、書く人の気持ちを投影するようになった変化とも言えます。ここでは、その「関戸本古今集」によって、呼吸する行をみていきます。

遅 多 春 支

支 利 多 介 春

可 堂 万

遅 可 久 有

尔 可 堂 無 佐 久

1行の中の強・弱の変化をつかむ

(関戸本古今集より)

基礎基本講座

現代詩文書基礎基本講座 (13)

小竹 石雲

【雁塔聖教序】 褚遂良 唐 653年

褚遂良の書した序碑と序記碑の総称である。国禁を犯しインドへ旅した玄宗が17年の歳月を経て、仏典を長安に持ち帰り翻訳した。太宗が序、高宗が序記を撰文した。西安の大雁塔の左側(西)に太宗の序碑(文は右起こし)、右側(東)に高宗の序記碑(文は左起こし)がはめ込まれている。

・原帖



①写実的臨書



②発展的臨書



特徴

軽妙な筆致の底に沈んだ強さが、高い響きを生み、空間に送り出された余韻となり心をなごませてくれる。

①写実的臨書

・字形は、懐が大きく1字の中に強く書くとすると、軽く書くとこのころの虚実がある。

②発展的臨書

・緩急、抑揚、強弱の変化をつけて書く。弾力で空間を大きく捉えた、軽快なリズム感が心地よい。  
・高い響きから生まれる細線は聖武天皇雑集を参考にしながら書いてみた。写実的臨書よりもスピードを加え、字形に変化を加えてみた。

# 第72回 毎日書道展

主催：毎日書道会・毎日新聞社

## ●東京展

### ○国立新美術館

※毎週火曜・水曜休館または休室日

前期(Ⅰ) 7月8日(休)～7月12日(月)

前期(Ⅱ) 7月15日(休)～7月19日(月)

後期(Ⅰ) 7月22日(休)～7月26日(月)

後期(Ⅱ) 7月29日(休)～8月1日(日)

○東京都美術館 = 7月18日(日)～7月24日(土)

※7月19日(月)は休館

## ●四国展

8月25日(休)～8月29日(日) / 愛媛県美術館

## ●関西展

9月22日(休)～9月26日(日)

第一会場 京都市京セラ美術館  
第二会場 日図デザイン博物館  
第三会場 みやこめっせ第二展示場

## ●中国展

8月17日(火)～8月22日(日) / 広島県立美術館

## ●北陸展

8月22日(日)～8月26日(木) / 富山県民会館

## ●九州展

10月19日(火)～10月24日(日) / 大分県立美術館

## ●東北仙台展

9月10日(金)～9月15日(休) / せんだいメディアテーク

## ●北海道展

9月22日(休)～9月26日(日) / 札幌市民ギャラリー

役員展

9月22日(休)～9月26日(日) / 大丸藤井セントラル

## ●東北山形展

10月20日(休)～10月24日(日) / 山形美術館

## ●東海展

8月24日(火)～8月29日(日) / 愛知県美術館ギャラリー

## 書道芸術院秋季展

●書道芸術院役員 ●審査会員選抜 ●審査会員候補公募

会期 / 令和3年10月5日(火)～10日(日)

10時～18時 (最終日は17時まで)

会場 / セントラルミュージアム銀座

東京都中央区銀座3-9-11 紙パルプ会館5階

TEL. 03-3546-5855

〈併催〉「書道芸術院の書・推薦作家」展

(15名出品)

会場 / アートサロン毎日

東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル1階

TEL. 03-3212-2918

主催 = (公財)書道芸術院

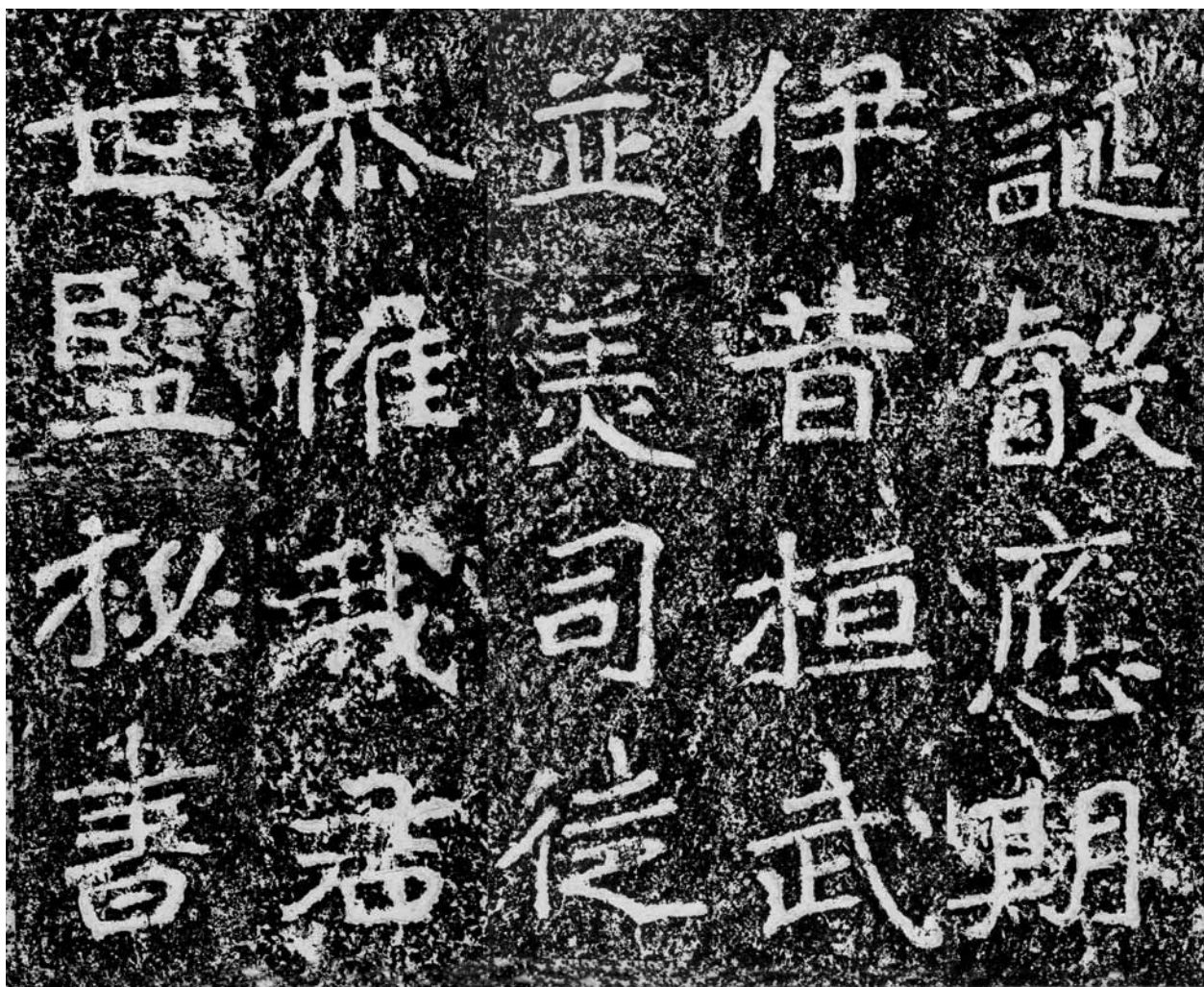
後援 = 毎日新聞社 (公社)全日本書道連盟 (一財)毎日書道会

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7 東神田プラザビル3階

TEL 03-3862-1954

※審査会員候補作品締切 8月5日(木)必着

誕敎應期。伊昔桓武。並美司徒。恭惟我君。世監祕書。



(掲載図版・50%に縮小)

古典鑑賞

433

鄭羲下碑③  
北魏 鄭道昭

〔解説〕中国・六朝時代とは、魏・呉・蜀の三国時代(220～280)から隋が統一王朝を建てる(589)までの南方六王朝と、北方各王朝をあわせた「魏晋南北朝」の時代を指す。書道史上の「六朝の書」とは、この時代に北方で勢力を誇った北魏時代のものである。

この北魏時代の書を代表するものに、龍門造像記や鄭道昭の磨崖碑などがあり、断崖に掘られた洞窟の壁面や、高く切り立った岩山などに文字が刻まれている。

これらの北魏の書からは、初唐時代の整然とした楷書とは違った素朴な文字造形や、荒々しさ、力強さなど、野趣あふれる美しさを感じ取ることができる。(編集部)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

漢字研究部臨書課題 (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

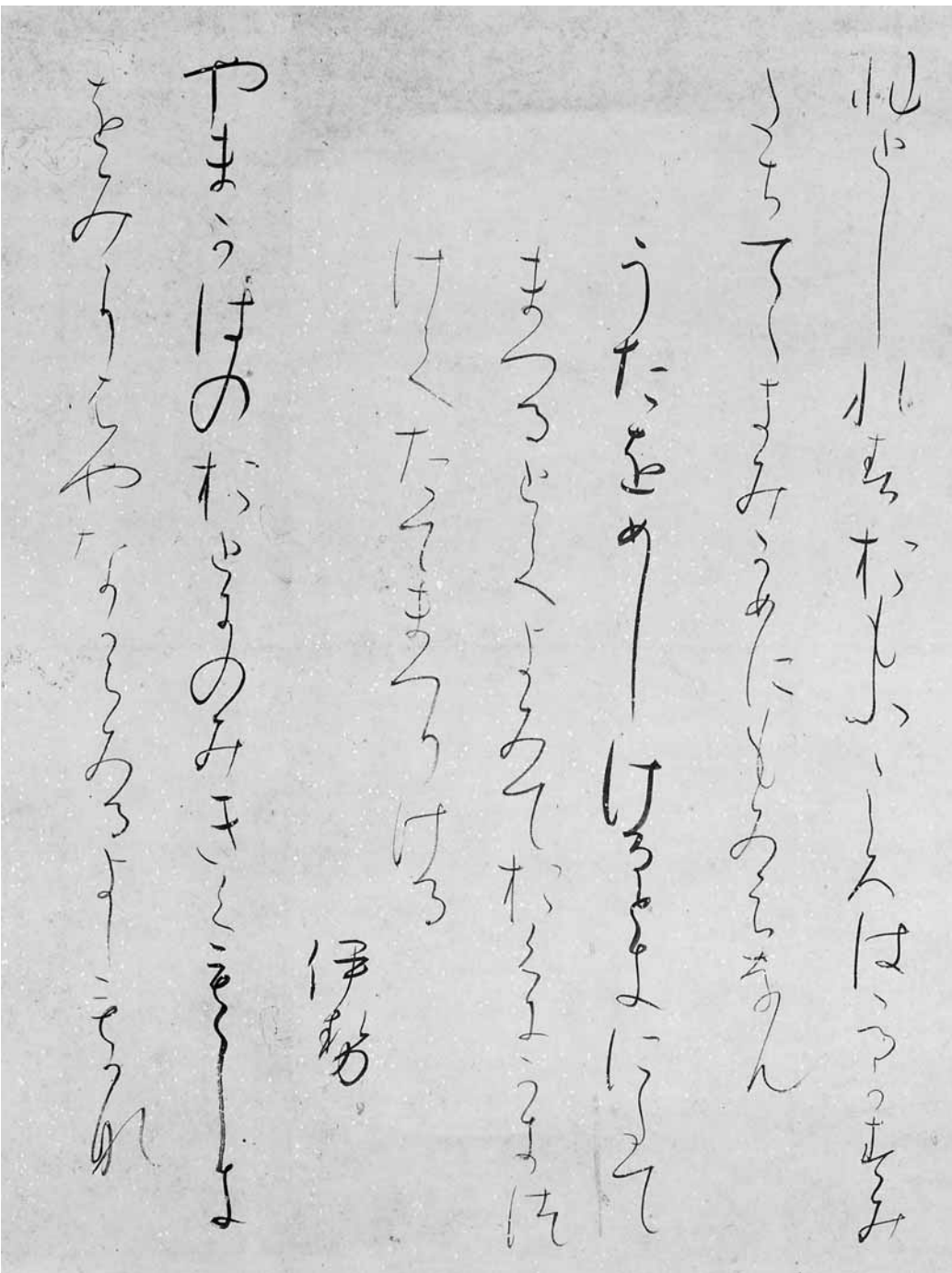
特別研究部臨書課題 (A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可) 当該古典の上記掲載部分以外も可。  
(B. 小品の部—半切1/2以上半切以内・全紙1/2(約68×68cm)以内も可(縦横自由))

古筆鑑賞

207

高野切第三種  
（伝紀貫之）

③



かな研究部臨書課題

特別研究部臨書課題

〔半紙普通判（料紙可）・縦長に使用）  
別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。  
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。（全臨も可）

B. A. 大作の部Ⅱ毎日展審査員・会員サイズ以内、2×6尺全紙も可  
小品の部Ⅱ半切以上、半切以内・金紙（約68×68cm以内）も可（縦横自由）  
△当該古筆の左記掲載部分以外も可。▽

（掲載図版・75%に縮小）

（個人蔵）

（よみ）  
ひとしれずおもふころはるるがすみ  
たちで、きみがめにもえなん  
うたをめしけるときに、たて  
まつるとで、よみておくにかきつ  
けてたてまつりける

伊勢

やまがはのおとにのみきくも、しき  
をみをはやながらみるよしもがな

〔解説〕「高野切第三種」は、整った平明な字形と暢達した筆線に特徴があり、筆者は3人の中で最も若い書き手であったと考えられている。同筆の古筆遺品として伝えられているものに、①「粘葉本和漢朗詠集」（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）②「近衛本和漢朗詠集」（陽明文庫蔵）③「元暦校本万葉集卷第一」（東京国立博物館蔵）④「蓬萊切」（五島美術館ほか蔵）⑤「法輪寺切本和漢朗詠集」（東京国立博物館ほか蔵）などがある。  
（編集部）

※古筆は原寸（以上も可）で臨書し  
まじ。○

※落款を必ず入れる。  
○○臨（押印のみも可）

漢字規定 初段以上 【七月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

種谷萬城選書



夜眠日走

よみ（夜眠り日に走る）

書体＝自由

### 習い方解説 (三)

種谷萬城

夜眠日走

（夜眠り日に走る）

（普灯録）

「その時に応じて為すべきことをする」が語句の意味です。周の金文を基に書きました。篆書（甲骨文・金文・小篆・印篆など）作品の制作には、専門の字典で校字し、蔵鋒・中鋒の筆法、左右相称・等分割など、楷行草書とは異なる書法の学習が必要です。古人の造字感性に触れ、漢字の成立を考察して下さい。尚、『眠』字は篆書、隸書では『𠂔』字に作りまします。左は、行書で書きました。

〈参考作品〉



漢字規定 秀級以下 【七月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

千葉蒼玄選書

崇峻山 領

蒼玄

崇峻山

よみ (崇峻山領)

書体 楷書

習い方解説 (三)

千葉蒼玄

崇峻山領 (崇峻山領)

\*たかい山、すぐれたみね

これも蘭亭叙の中からの対句、茂林脩竹と続く。田舎の自然が見えてくるようだ。造像記は唐の時代の完成された書体から見ると、縦横の線の角度太さに統一性がなく粗削りに見えるが、それだけに野性味を持った力強さが魅力である。漢字作家の中にはこの造形に魅了されている人も多い。三角形の線と反り返るような背勢に気を付けて書いてみた。

〈造像記〉



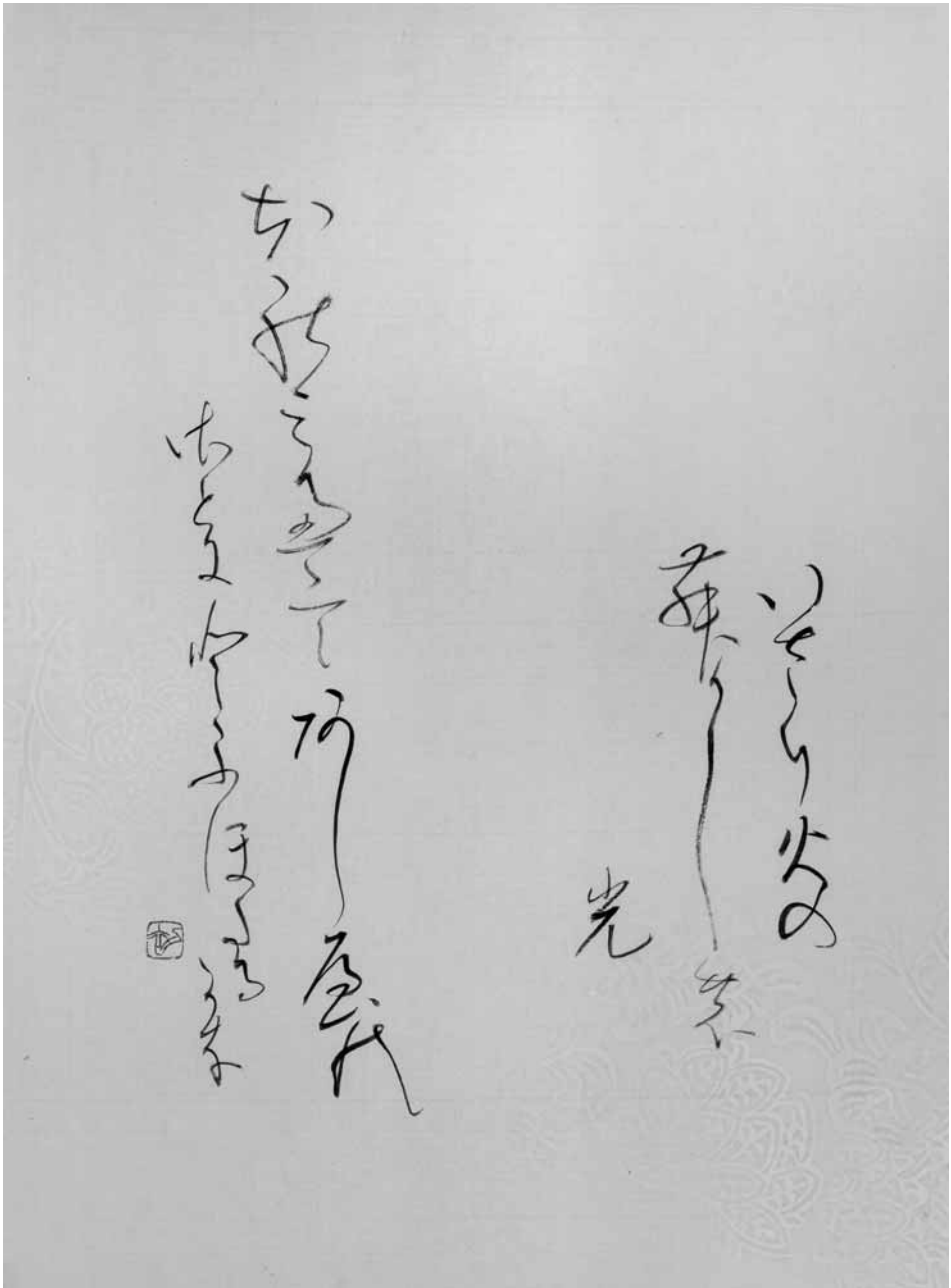
〈訂正とお詫び〉

5月号(721)漢字規定の予告に誤りがありました。訂正しお詫びいたします。

×崇峻山領 ↓ ○崇峻山領

かな規定 初段以上 【七月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可）

勝山初美選書



よみ方

いさり火の昔(舞可)の(農)光ほ(本)の(能見)三(え)盈(て)天()

あ(阿)しや(屋)の(能)里(佐)に(尔)と(登)ぶ螢(ほ)多(る)か(可)な(奈)

創作

### 習い方解説 ③

勝山初美

いさり火の昔の光ほの見えて  
あしやの里にとぶ螢かな

(藤原良経)

歌人・書家である藤原良経が昔を  
思い起こし、懐古の心を詠んだ歌で  
す。

かな作品は変体がなや連綿を用い  
優雅さや流れを表現します。漢字も  
使いますが、かなに調和しやすい書  
体を選ぶ事が大切です。省略しすぎ  
ると変体がなとの区別がつきにくく  
なります。

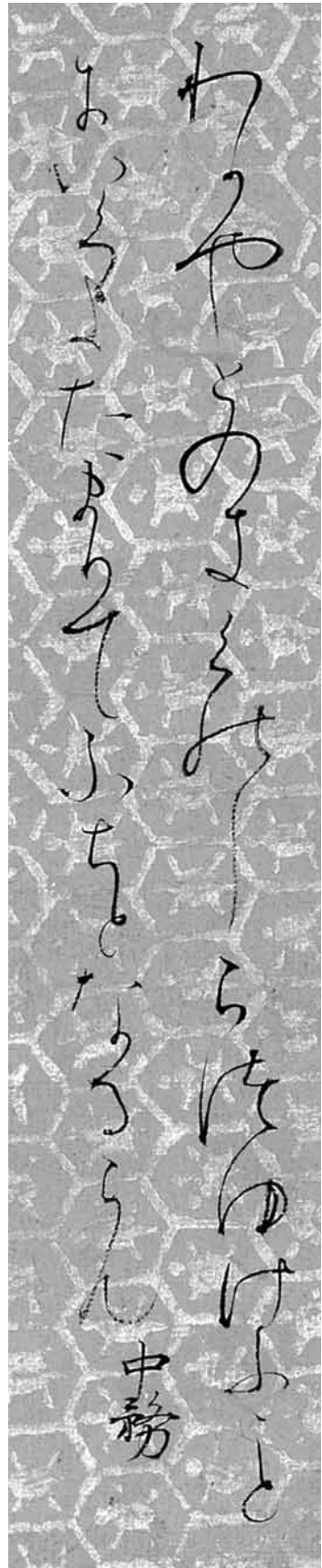
かなも線が大事ですが、構成も重  
要です。行間・一行の疎密などに配  
慮して、自分なりの作品創りをして  
下さい。左行頭の濁筆部は線が痩せ  
ないよう、運筆の速度に留意しまし  
ょう。

\*料紙は半紙版(33.0×24.5 cm)  
を使用しましょう。

かな規定 秀級以下 【七月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連続または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大120%)

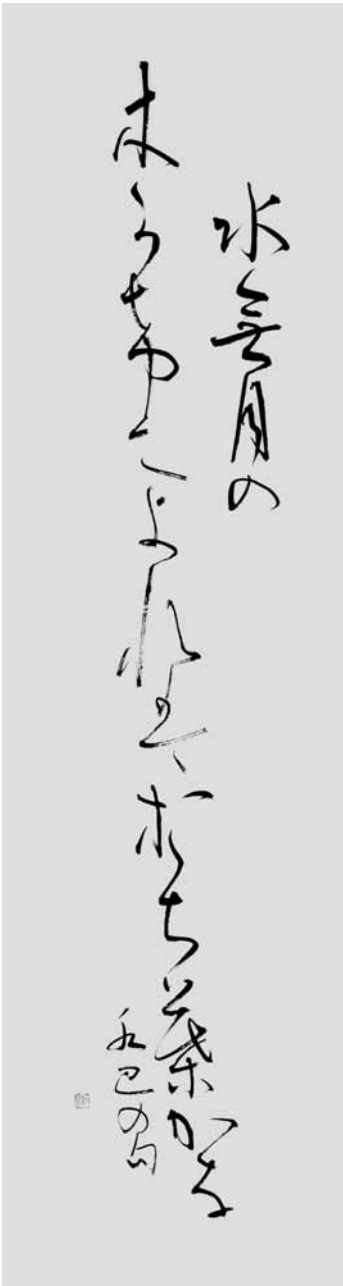


よみ方 わが(可)やどのき(支)く(久)の(能)しらつ(徒)ゆけふこと

に(尔)いく(久)よたまり(利)てふちとなるらん中務

かな条幅規定 【七月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

善養寺紅風選書



よみ方 水無月の木陰(可希)に(二)よれば(盤)落(於ち)葉かな(奈) 水巴の句

創作

### 習い方解説 (三)

善養寺紅風

水無月の木陰みなづきのこかげによれば落葉おちばかな

(渡辺水巴)

俳句は、文字数が少なく配字に苦勞しますが、縦に伸びる線、横に張る線に気を配り、伸縮しながら美しい流れにしたいですね。墨継ぎの位置を変えるだけでも、リズムや表現にも変化が生まれます。余白を生かして作者名を入れましょう。大きさに注意しましょう。

※タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【七月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

辻元大雲 選書



窓竹影揺書案上 野泉聲入硯池中  
(窓竹影は揺らぐ書案の上 野泉声は入る硯池の中)

書体||自由

習い方解説 (三)

辻元大雲

夏の雰囲気を感じさせる句です。窓外の竹の影が机上に映り、庭の泉のせせらぎが硯面に響いてくる。心静かな書斎の風情ですね。書室で無心に墨を磨り、筆を執る。こんな心境になれませんか。今回は行書をベースに草書をアレンジしてます。草書の変化ある表情を活かしましょう。

※タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 【七月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

半田藤扇 選書



藤扇書

書体||自由

温良恭儉讓 (論語)  
(温良恭儉讓)

習い方解説 (三)

半田藤扇

今月の作風は、摩崖碑(自然の崖を利用して刻した文字)を参考にしました。中国に訪れた方は、山東省の雲峰山・天柱山・太基山の雄大なスケールを想い出して下さい。その特徴は横に広がり、ゆるやかなうねり、粘りで送筆。転折の筆使い、藏鋒など大きなリズムではないでしょうか？

※羊毛筆を使用

螢のやどは川ばた楊  
楊おぼろに夕闇寄せて  
川の目高が夢見る頃は  
ほほほたるが灯をともし  
唱歌「螢」美泉書

◇用紙 市販ハガキまたは私製のハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用  
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

書体＝自由

ご注意!!  
用紙の大きさにばらつきが見られます。  
用紙サイズ(14.8×10cm)を守ってください。

### 習い方解説 (三)

川村美泉

子供の頃、竹ぼうきとカゴを持って螢を取りに行ったことを思い出し、この唱歌を選んでみました。

漢字の行書は、いろいろな続け方がありますが、流れのあるペン使いを心がけてください。かなは、「高野切第三種」などを参考にしてみましょう。

ペンを持つ時、緊張すると動きが小さくなるので、息をしっかりと吐きながらゆったりした作品を目指しましょう。

螢のやどは川ばた楊  
楊おぼろに夕闇寄せて  
川の目高が夢見る頃は  
ほほほたるが灯をともし  
唱歌「螢」

侍史 机下 入梅 紫陽花が雨に  
侍史 机下 入梅 紫陽花が雨に  
降り続く雨に青空が恋しくなります  
降り続く雨に青空が恋しくなります

岩垣若翠

(楷書) 侍史 机下 入梅 紫陽花が雨に  
(楷書) 降り続く雨に青空が恋しくなります

(行書) 侍史 机下 入梅 紫陽花が雨に  
(行書) 降り続く雨に青空が恋しくなります

基本用語

「侍史」宛名の左下に付ける敬称。「机下」宛名の脇に書く敬称。「案下」なども

(掲載手本95%に縮小)

- ◇ 小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓号を
- ◇ 用紙は普通版半紙横 $\frac{1}{2}$ (24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可
- ◇ 所定の出品券を作品の右下に貼る <審査会員を含む誰でも出品可>

# 木一プロ作品 各部総評

NO. 720

漢字部 師範 中島 藤邑

ねばり強い筆致でバランスよくまとまった作。落ち着いた雰囲気安定感を生む。落款さらに工夫を。

◎漢字部総評 上級課題は書体書風の変化ある作が多かった。下級の楷書も同様であるが、基礎力の養成としての努力を。(大雲評)



漢字条幅部 師範 富原 属水

ゆったりとしたリズムが心地よい。字形も端正。柔和で温かみのある線は上質。技量の高い作品。

◎漢字条幅部総評 上級は行草作品が多く見られた。表現は多彩で見応えがあった。落款に巧拙の差が出る。研究が必要。(萬城評)



前衛書部 特選 遠藤 和香

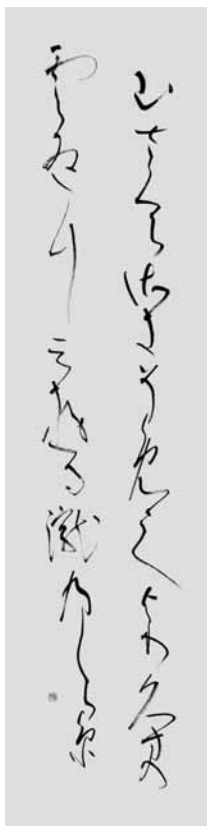
淡墨の墨色美しく、墨だまりも効果的に立体感を出している。左から右に流れるシャープな線がよい。

◎前衛書部総評 墨色の妙や巧みな構成を活かした独創的な作品が多く、今後期待大。(瑤韻評)



かな条幅部 師範 阿久澤隆華

軽快な運筆でリズムカル。筆鋒利かせて、墨の潤濁、余白の美しさもあり見事な作品となった。



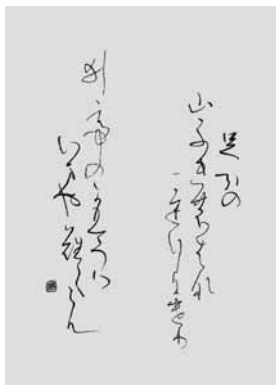
現代詩文書部 特選 原沢 雄一

表情豊かな切れのある強い線とテンポのある運筆リズムにより、英字と漢字、かなの調和に成功す。

◎現代詩文書部総評 楽しんで書いた後には、狙いを明確化した作品作りを奨めたい。(巨峰評)



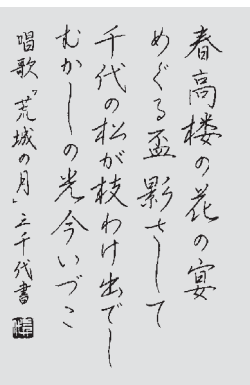
◎かな条幅部総評 概ねよく研究した作品が多く見られた。免の変体かなの誤りあり。事前に辞書でしっかり確認を。(東舟評)



ペン字部 師範 多胡三千代

紙面構成見事で、滑らかな線質が穏やかな雰囲気醸し出し、魅力的な作となった。

◎ペン字部総評 全体的によい構成の作が多かった。流れて書いて「ぐ」や「づ」の濁点をつけ忘れたもの散見、確認を。(蒙峰評)



かな部 師範 齋藤 杏邑

きれ味のよい線で、リズムの緩急が美しい。墨量、墨色の使い方も的確、模範のような風格が漂う。

◎かな部総評 出来るだけ料紙を用いて作品としての意識を持って取り組んで下さい。紙質によって墨の使い方も変わります。(空手評)

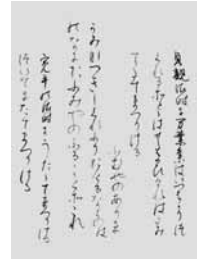
今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 山口仙草 木村東舟 東福青篁

小品の部

部分拡大



臨書 (光昭) 嶋 由香 「高野切第三種」

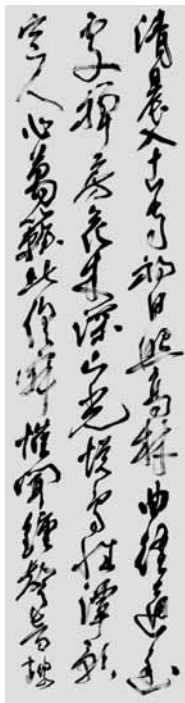


嶋 由香 臨

35×135cm

◆無理なく自然体での臨書作品。リズムミカルに書き進む快い気持が窺える。格調高い作品になった。(東舟評)

漢字 (宗苑社)  
茂木 絢水  
「常建の詩」



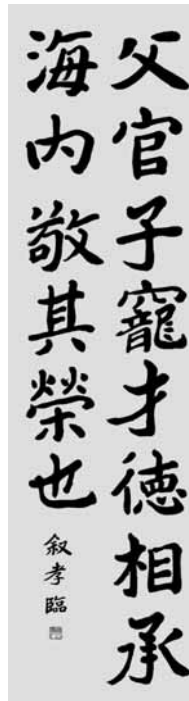
茂木 絢水 書

135×35cm

◆弾力のある強い筆線の流麗な作品。自然なリズムと連綿の呼吸が詩情豊かな雰囲気醸し出している。(青篁評)

◆鄭碑ののびやかで豊かな運筆をよく表現している。ねばりある中にとりとした筆致が魅力。(大雲評)

安藤 叙孝 臨



135×37cm

臨書 (千葉) 安藤 叙孝 「鄭羲下碑」

◆小作品ながら、新しい造形美の前衛作品。流れもよく余白も美しい。さらなる高まりを期待。(仙草評)

前衛書 (紅瑤)  
松本 秀皋  
「流」



松本 秀皋 書

105×37cm

総出品点数  
67点

創作の部(34点)

漢字 7点

かな 6点

現代 13点

篆刻 8点

前衛 8点

臨書の部(33点)

漢字 29点

かな 4点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

もく、青木 藤漣

〔かな〕

奥田 三宅 直美

卯月 西巻サト子

〔現代詩〕

大雲 神谷 雲脚

大雲 佐藤 希雲

玄穹 尾形 紅霞

花埜 高橋 奎媛

〔前衛〕

四谷 平田 悦子

蓮紅 大友 紅春

〔漢字〕

高真 岩上 郁子

澄春 土屋 恵仙

やま 山口 律子

青蓮 大町 菜円

千葉 山口 鈴風

蒼原 佐藤 菰佳

青蓮 伊藤 有津

宗苑 白井 真理

〔かな〕

幕張 高橋 賢雲

臨書 (大雲) 鷺山美梢 「鄭羲下碑」

公諱羲字幼驥司州熒陽開封人也肇洪源於有周胙母弟以命氏桓以親賢司徒武以善職並歌繡衣之作誦乎弁世降遜于漢鄭君當時播節讓以振高風大夫司農創解詁以開經途逆刊番史美灼二書德音靈纘碩響長烈揚州以十策匡時司空豫州以勲德著稱高祖略懷亮儒素味道居真州府招辟莫之能致值有晉弗覓君道陵夷亮瞻曜史劉避地冀方隱括求全靜居自逸屬石氏勃興披亂起正微給事黃門侍郎逡待中尚書贈揚州刺史曾祖詒以明哲佐世後燕中山乎太常卿濟南貞公祖溫道協儲端佐燕太子瞻事父暉 鄭羲下碑 美梢臨

鷺山美梢臨

166×70cm

◆巴筆によるゆったりと大らかな趣をよく表現。ほぼ原寸大の臨書作。集中力を保持しての作品制作に敬服。  
(青黛評)

前衛書 (蓮紅) 浅野彩紅 「輪舞」



浅野彩紅書

58×178cm

◆独得な縮墨の妙。横三つの集団が響き合い、余白も美しい。中央部の書線の変化が絶妙で見事。落款の位置一考を要す。  
(仙草評)

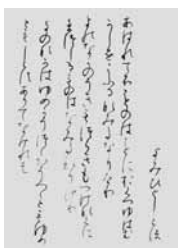
臨書 (英峰会) 吉瀬彩雨 「高野切第三種」



吉瀬彩雨臨

68×138cm

◆原帖をよく観察し、鮮やかな黄色の料紙に丁寧な臨書。全紙横2段にまとめた技量は立派。  
(東舟評)



部分拡大

漢字 (粹仙) 藤井龍仙 「孤花」



藤井龍仙書

234×53cm

◆直線のリズムを生かし、強靱な紙面にくい込む筆致と破筆、渴筆による変化が動きを与えている。  
(大雲評)

創作の部(43点)  
漢字 5点  
かな 6点  
現代 12点  
前衛 20点  
臨書の部(23点)  
漢字 20点  
かな 3点

総出品点数  
66点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

八街 小川 白柳

大拙 島中 成山

〔かな〕

奥田 関口 窓月

水壑 伊澤 香雨

〔現代詩〕

誠和 石崎 甘雨

もく 西川 藤家

〔前衛〕

蓉花 坂本 蓉花

玄象 大鹿 洋江

容洲 阿部 邑里

篤信 三浦 松雲

松風 西條 松雲

青蓮 山崎 恵

〔臨書の部〕

〔漢字〕

紅瑤 金井みどり

千葉 竹浪 叙舟

英峰 佐藤 桂香

華祥 加藤 雅芳

紅瑤 相澤 敦子

〔かな〕

千葉 猪又 理扇

清月 境野 和子

漢字研究部  
(鄭羲下碑)

選評 辻元大雲

今月のホープ作品



井上花香

◎漢字研究部総評

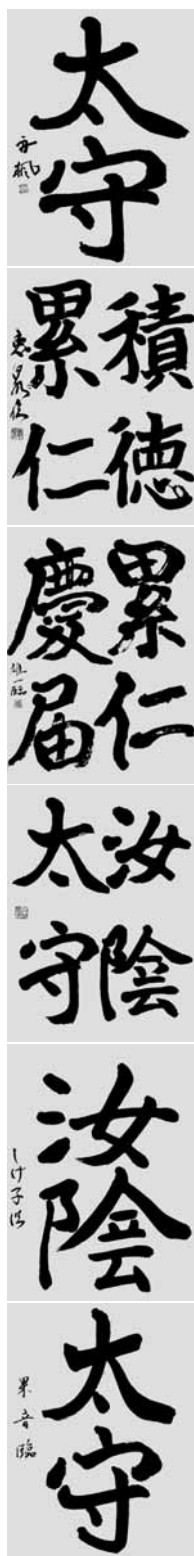
漢字研究部 特選 井上花香  
鄭羲下碑の特徴をよく観察し、直筆中鋒の運筆の技法も会得出来ている。6文字の配字のバランスも全体とよく調和している。落款を含め気配りのゆき届いた佳作である。

楷書古典の基本として唐代の四大家に並び、北魏の書が取り上げられる。方筆の代表としての龍門二十品に比肩して、円筆の雄、鄭道

昭の諸碑が存在する。中でも今回の鄭羲下碑はその代表である。ゆったりと落ち着いた中に骨格の厳しさを感し、滋味溢れる楷書である。応募作は100点余と多く、関心の高さを物語る。全体として形にとらわれて肝心の骨格の不安定な作が多かった。「綿」の糸偏の下部は判然としないが、両方共可とした。異体字か碑面の欠損か判断に迷う。



天紫子 裕美 紫峰 紫峰 紫峰



一雄 舟一 雄一 雄一 雄一



美竹 藤原 美竹 美竹 美竹



佳信 信代 佳信 佳信 佳信

